2022年(令和4年)3月25日(金曜日)　(日刊)　新潟日報

バングラデシュの友へ

三条・栄中央小4年が寄付

バングラデシュの学校への支援金をエラヒさん夫婦に手渡す児童＝三条市の栄中央小

バングラデシュについて学ぶ三条市の栄中央小学校4年生43人が、回収したアルミ缶などで得た収益金1万4817円を、現地の学校を支援する見附市の夫婦に贈った。

児童たちは昨夏、バングラデシュ出身で見附市の会社員モハメッド・ヌルル・エラヒさん(55)と妻の美砂子さん(72)から民族衣装や伝統的な遊びなどを教えてもらった。

貧困や労働で教育を受けられない子どものため、エラヒさんが母国に学校を建て、運営資金を贈り続けているという話を聞き、子どもたちは「自分たちも何か行動をしたい」と支援活動を考案。他学年や地域の人に協力を呼び掛けるなどしてアルミ缶約110キロ、新聞紙約90キロを集めた。

18日、学校を訪れたエラヒさん夫婦に収益金を渡した佐野怜恩(れおん)さん(10)は「現地の子どもたちの勉強する環境が少しでも良くなるよう大事に使ってほしい」と話した。エラヒさんは「バングラデシュの子どものために活動してくれたことがうれしい」と感謝した。

エラヒさんと長年交流している佐藤義朗校長(59)は、現地の学校建設にも協力した。「子どもたちはグローバルな視点で考える力を育むことができた。今後も活動を続けたい」と語り、バングラデシュの子どもの支援活動を一緒に行う学校を募るつもりだ。